

## 会員管理システムについて

現在、会員情報（氏名、住所、卒年、電話番号、メールアドレス等）に関して、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて管理運営しております。本ファイルはパスワードを設定し、金庫内で管理する等、個人情報保護に配慮した運営をおこなっていますが、近年はサイバー攻撃等のリスクも増大していること、個人データ取り扱いに関して厳格化が求められるなど、会員情報の管理をより慎重にしなければなりません。

当会は1万人を越える膨大な個人データを扱っており、漏えい、紛失（滅失）などが発生しないように細心の注意を払い、時世にあわせた対応を行っていくことは会の運営のためにも重要な事案であることからサイバーセキュリティ、データ冗長性の確保されたクラウド型会員管理サービスの導入にご理解を賜りたいと存じます。

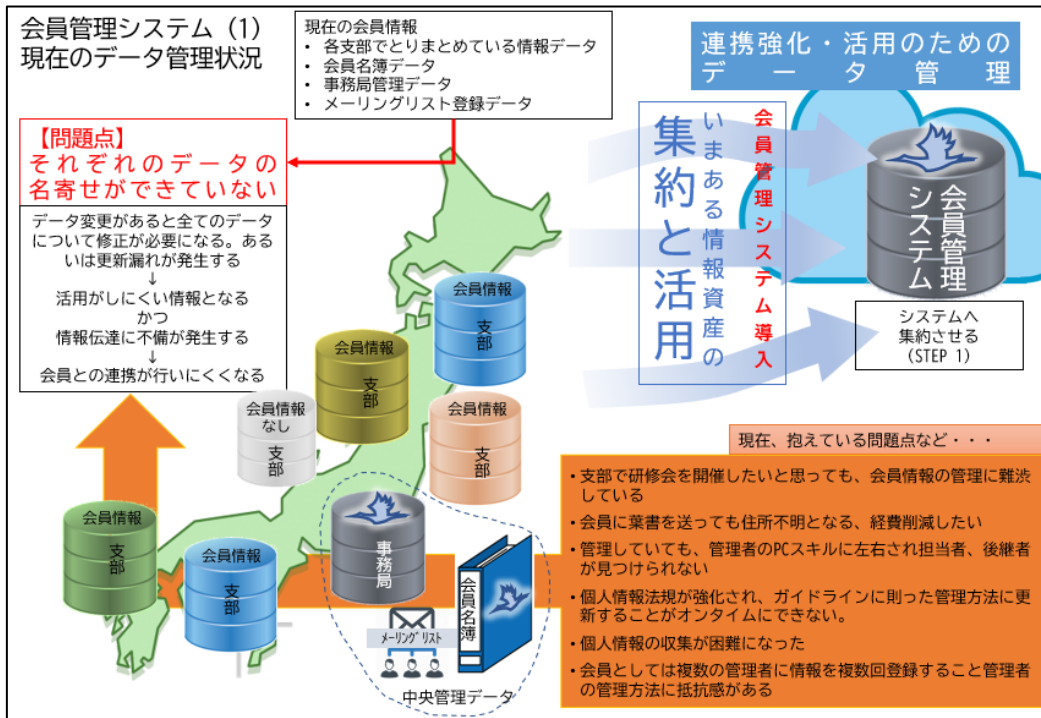
一般的なクラウド型会員管理サービスでは、会員ごとにマイページが作成され、自身の住所、メールアドレスなどの登録、修正が行えるとともに、会員への通知機能や住所地などの条件に合致した会員へのメール通知が簡便に行える機能が備わっており、各都道府県で管理している情報を集約し、本システムから通知を行う仕組みを導入することで各支部における負担の軽減および支部活動の活性化にも寄与するものと考えております。

### ● クラウド型会員管理システムのメリット

- データ管理はセキュアな環境のデータセンターにおいて行われるため、現在の状況よりも厳格化され、日々更新されるセキュリティー対策への対応が取られるサービスを利用することにより、本会のセキュリティー対策の質の維持が行える。
- 会員情報を事務局と各支部で保管する必要がなく、会員情報の更新がワンストップ（1カ所の訂正のみ）で行うことができる。
- 24時間365日で会員自身が情報の修正をすることが可能。
- メールでの通知が可能となるため、高騰している郵便費の圧縮を図りつつも簡単な操作でタイムリーに一斉通知が行える。
- 各支部で保管している個人情報を本部で一元管理することで、各支部の負担を軽減しつつ、よりセキュアな管理運営が可能となる。
- 事務局で行う操作等はアプリケーションで提供されるため、担当者の引き継ぎも確実に簡易に行える。

- クラウド型会員管理システムのデメリットと改善策
  - 導入費と毎月の保守料金が発生する。
    - ◇ 対応：複数社より見積もり、より安価かつ機能バランスがはかれているサービスを選定します。
  
  - PC やスマートフォン環境に不慣れな会員は活用できない可能性がある。
    - ◇ 対応：事務局での直接対応も継続し、事務局員が会員情報を更新することで不慣れな方にも配慮した対応を継続します。
  
  - メールアドレスを持っていない方へ通知が届かない。
    - ◇ 対応：メールアドレスがない方へは、従前の連絡方法を踏襲します。
  
  - サービス提供会社の倒産、停止等により中断する恐れがある。
    - ◇ 他の校友会導入実績があることも条件として選定する。
    - ◇ 対応：定期的に会員情報を事務局でバックアップ処理をすることにより、サービス提供が終了しても運営維持が図れます。なお、バックアップはオフラインかつ高度な暗号化処理を施した保存媒体を使用し、事務局内の金庫で保管をすることでサイバーセキュリティにも配慮します。

参考) 現在の会員情報の管理と問題点



参考) メール送信のイメージ図

